



民話を語る



和太鼓の競演の「鬼が集うぼっけえ國 吉備!!」で、全出演グループの打ち手による「疾走」で会場は最高潮に



カミガツジプラザに設けられた会場入口。鬼ノ城の西門を模している



神が辻を囲むように展示された鬼の絵に見入る



たたく面が6尺3寸ある大太鼓をたたきっこり



和太鼓を一生懸命たたく



オペレッタ「義民さま」を演じる新本小学校児童



県のオープニングフェスティバルで、イメージソング「愛の雫」を熱唱するまきちゃんぐ（総社市出身）



神が辻の舞台には生け花



おもてなしコーナー



吉備の黒媛を舞う花柳さん



県のオープニングフェスティバルに出演した備中温羅太鼓（写真左）と総社南高校ダンス部（写真右）



あつ晴れ!おかやま国文祭

「国民文化祭・おかやま2010」が10月30日から11月7日までの9日間、岡山県下の全市町村を会場に開催されました。

総社市では、期間中にきびじアリーナで「美術展（日本画）」、市民会館では10月30日・31日に「和太鼓の競演」、11月3日に「シンポジウム『古代吉備の風景』（14頁関連記事）」、同7日は「民話の祭典」を開催。全国からその道のトップが集まり、シンポジウムで古代吉備の姿を考えたほか、和太鼓の勇壮な響きや、地域色豊かな民話、日本画の美を多くの人が堪能しました。

延べ約1万人の人出で、いずれの会場も大いにぎわいました。日本最大の文化の祭典「国民文化祭」は閉幕しましたが、これを契機に、地域や世代を超え、文化の交流や創造が、今後より一層盛んに続けられることを願っています。



民話を語る立石おじさん

地域と世代を超え交流

あつ晴れな文化の祭典



美術展（日本画）。多くの人が日本画の美を堪能した